

# 農村で元気 子も親も

## 「田舎暮らし体験」NPO企画



竹を使ってパームクーヘンを焼き上げる様子を見つめる子どもたち  
＝昨年11月、南山城村童仙房

子育てを通じて都会と田舎をつなぎたい……。そんな思いで昨春秋、左京区と宇治市の親子グループが南山城村と宮津市の農村にそれぞれ出かけ、田舎暮らしを体験した。「こども×まち×田舎プロジェクト」と名付けた取り組みで、今月下旬からは都会と地方のつながりを見つめ直す連続講座を京都市で開く。

企画したのは、子どもと 一緒に遊びや学びを考える 活動を展開するNPO法人

「こどもアート」(中京区)。代表の加藤ゆみさん(36)＝左京区＝らが、自然豊かな田舎を知らなかったり身近なお年寄りが近くにいなかったりする都会の子育て世代と、過疎・高齢化が進む農村の人たちをつなごうと考えた。

### ●左京→南山城

昨年11月、左京区でミニコミ紙の編集に携わる女性ら大人7人と子ども10人が、南山城村の山あいにある童仙房地区を訪ねた。地元からは大人16人、子ども19人が合流。地元産の米と野菜、イノシシ肉を使い、一緒にシシ汁などを調理。食べながら子育てや生活に

### ●宇治→宮津

宇治市のNPO法人「子育てを楽しむ会」のメンバーは、宮津市の上世屋地区を訪れた。10世帯25人が11月下旬、古民家を改造した施設に宿泊。地区には子どもがいる世帯がなく、大人11人が出迎えた。一緒に冬支度の雪囲いをしたり、薪を作ったり。子どもたちは

## 子ら生き生き 母驚き

### 交流の様子を報告

東山、28日～来月23日

「こども×まち×田舎プロジェクト」の報告イベントは28日から3月23日までの毎週木～日曜、東山区松原通大和大路東入のカフェ「柴洋」で開く。28日は3カ所での交流を撮影した映像の上映会などを開催。以降はプロジェクトにかかわった地域や団体で活動する人たちの報告やワークショップがある。各地の特産を取り入れたランチ(実費)の提供もある。予約必要。詳しくは「こどもアート」のホームページ(<http://asonabi.com/>)で。問い合わせは加藤さん(090・4440・5670)へ。

畑で大根を抜き、里芋を洗って皮をむいた。

楽しい会代表の迫きよみさん(51)＝宇治市＝は「子育てに悩んでいる人も、田舎に行けば何か変わるのではないかと思えた。私にもふるさとができた感じがした」と振り返る。

受け入れの中心となった農業井之本泰さん(61)は「軒下に雪囲いをして、お母さん方も雪が3層積もる感覚がわかったようだ。子どもたちが走り回る姿に、

こちらは元気をもらった。キャッチボールのように交流が続けば」と期待する。

10月下旬には京都市内の子育てサークル9家族26人が綾部市志賀郷町を訪問した。加藤さんは「子どもたちは自然の中では体も心も解放され、母親が「こんな息子見たことない」と驚いたりする。農村では、そんな子どもたちが活力になる。こうしたつながりを大事にする取り組みを続けた」と話す。(横川修)



地元の人たちと餅つきに挑む子どもたち＝昨年11月、宮津市上世屋(子育てを楽しむ会提供)